



発行所  
カトリック福江教会  
広報委員会  
五島市末広町3-6  
☎ 0959(72)3957  
●ホームページ●  
<http://fukuechurch.jimdo.com>

# 10月は「ロザリオの月」

助任司祭 小島 明

朝晩涼しさを感じて、秋がやって来たことを実感する時を迎えました。私は福江教会に赴任して半年近くになりますが、まだまだ「地に足がついていない」というのが正直なところだと思っています。けれども、それも司祭としての経験という思いを持ちながら毎日を過ごしております。広報誌『こころ』に原稿依頼をいただきましたが、経験不足の私です。ので何か皆さんに一つ役に立つようなことを思いめぐらしまして、10月なので、ロザリオのことを何気なく書いてみたいと思います。

大切にされていますか？「もちろん、家に帰ったら祈りをしていますよ」という人もいますでしょう。かたや「様々なことが大変で、家ではどうしても…」という方もいることだと思っています。昔の人たちは、一日の始めと終わりは祈りをささげていたところが多かったようです。始めには「今日一日を与えてください」ことに対する喜び、終わりには「何も無く無事に過ごすことができた感謝」として神様にささげるという思いがありました。今は家庭における状況が多様化してきたこともあり、家庭の中でも

「だんらん」の時間が少なくなってきました。だから、家庭の中で祈りをささげることが難しくなりました。

お祈りは難しいものなのでしょうか？ 祈りは、神様とお話すること。あなたが一日出会ったすべてのことを

何気なく心の中で言うことです。お祈りは時や場所や状況を問わずにできることもシンプルなものです。イエス様が教えて下さった「主の祈り」も決して難しいものではありません。「アヴェ・マリアの祈り」「栄唱」も皆さんはよく知っています。大きな声で唱えなくても、自分の心の中で神様と向き合いながら一回ずつゆっくり唱えるだけでも立派なお祈りになります。

この3つのシンプルなお祈りを重ねることによって大きなお祈りへととなります。それは「ロザリオ」です。一つひとつに自分の思いを込めて祈りを重ねていく。それは、お花畑にいつ、自分の目に留まった花を大切に一つひとつ取って、それを一つの花束としていくようなものです。「ロザリオ」は日本語で「バラの冠」という意味です。きれいな冠を作るためには、祈りを大切に心が必要です。それを象徴する出来事があります。私が夕

イでのボランティアに参加した時のことです。ある日のミサの前にロザリオの祈りをささげる時に、一つの祈りの終わりごとに、小さな花瓶に花を一本ずつ入れることをしていました。一本ずつ増える花を見て、そこにいた人たちの心が詰まっているなあと感じることもできました。本当に紡いでいくものだと改めて思い知らされました。ロザリオをしようと心に思っても、きちんと全部ささげないといけないと思っっている方がいることでしょうか。確かにすべて唱えることが望ましいですが、2連や3連でもささげることができればいいと思います（2連や3連のロザリオを推奨するものではありません。あしからず）。心を込めてささげるものにはそれほどの価値があるということを大切にしたいものです。

10月は「ロザリオの月」。祈りを大切にする充実した時を過ごしてみたいかがでしょうか。



# ミサ典礼の内容が変わります！

この度、日本カトリック司教協議会より、ミサ典礼の内容が変更されるとの発表がありました。変更の時期や内容、変更する理由など主任神父様に伺ったところ、下記の内容で回答を頂きました。

「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所を導入が、今年の待降節第一主日（11月29日）から実施される。信徒に関係する変更箇所の幾つかを紹介する。

1. 沈黙。回心の祈りの時、祈願への招きの後、各朗読と説教の後、拝領後。
2. 朗読。聖書朗読、答唱詩編、説教は朗読台から行う。
3. 答唱詩編。他の歌に置き換えられない。出来る限り歌うように。出来ない場合は朗唱する。
4. アレルヤ。原則として唱句は聖歌隊が先唱者が歌う。会衆は「アレルヤ」の部分の歌う。
5. 福音朗読。会衆は「主に栄光」と唱えながら、額、口、胸に十字架のしるしをする。
6. 共同祈願。司祭は自分の席に立って招きのことばを述べる。意向は朗読台もしくは他のふさわしい場所から唱える。

（変更箇所の文章の中には、現在すでに実施されている内容も含まれています。）

このような変更は神への礼拝の頂点にある感謝の祭儀（ミサ）をより相応しく行うため、世界のローマ典礼様式教会との一致を意識しつつ、地方教会独自の文化や伝統を生かすために行われます。

今回の変更については、カトリック

中央協議会のホームページ（URL）  
<http://www.cbj.catholic.jp/jpn/index.htm>にて、典礼委員会

を選択して頂くと確認出来ます。また、左の冊子新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所について



は、ご希望の方には無料で配布するとのことです（送料別）、左記までお問い合わせください。

## 《カトリック中央協議会

### 司教協議会秘書室》

TEL: 03-5632-4451  
FAX: 03-5632-4465

## 教会堂案内者養成講座

9月27日（日）信徒会館一階にて教会堂案内者養成講座が行われた。本講座は大司教区教会歴史文化遺産評議会の巡礼部会主催によるもので、世界文化遺産の登録が予想され、増加傾向にある巡礼等で教会を訪れる人々への対応として、長崎の教会群を殉教の歴史を通して理解してもらう為に、案内者の養成を目的とするものである。

講座は全六回で構成され、月一回のペースで行われる。八月に第一回目の講座が開かれ、今回は二回目であった。会場には、下五島の各小教区より数名ずつの参加者があり、合わせて三〇名ほどとなっていた。

当日はNPO法人長崎巡礼センター職員の大塚明子氏による、長崎



のキリスト教史についての講義が行われていた。下五島の教会だけでなく、フランシスコ・ザビエルが来日した所から、長崎に宣教師が来られキリスト教が広まっていく内容について、また迫害、殉教の歴史についても丁寧な解説がなされていた。

本講座は、来年一月までの予定で行われ、終了制作として各小教区教会堂の説明案内書を作成する予定。観光や巡礼で訪れる外部の方々への対応は元より、若い世代の信徒や子ども達への「語り部」としての役割も期待できるのではないかと。より多くの方が本講座を修了され教会堂案内者として活躍されることを願っています。



## 下五島地区研修会

去る九月十三日（日）午後一時より、福江教会にて下五島地区評議会主催の研修会が行われた。今回の研修会のテーマは「被爆マリア像を迎え、平和を祈り、戦後70年「司教団メッセージ」を学ぶ」聖堂内は各小教区より数多くの信徒、聖職者などが集まりほぼ満席となった。

開会前から普段とは違う張りつめた空気が聖堂内を覆い、緊張の中で開会を迎えた。開会と同時に被爆マリア像が一堂し、会衆全員で迎え入れた。マリア像への献香、献花のあと平和への願いを込めてロザリオの祈りを唱えた。

その後「過去を振り返る」をテーマに、被爆体験者である浦上教会の深掘繁美氏の証言を聞いた。当時の深掘氏は神学校に通う中学3年生。勤労学生として働いていた三菱造船の工場内で被爆。爆発後の惨状、苦



しみ亡くなっていく人々の様子、帰り着いた自宅は跡形も無くなっていった事、きょうだい四人を亡くした事など詳細に証言された。

後半は「未来に向けて」をテーマに「戦後70年 司教団メッセージ」の解説を高見大司教様より頂いた。解説では、教会が平和への取り組みを信徒や聖職者など教会内部だけでなく、宗派、人種を越えて広く全世界へ目を向けだした歴史を、ヨハネ二十三世教皇様の回勅「地上の平和」やヨハネ・パウロ二世教皇様の広島で行った平和スピールのことばを用いて説明された。

また、国内外の情勢を交えて平和のためには真理、正義、愛、自由のどれか一つも欠けてはいけないこと。そして、「軍事力ではなく、粘り強く対話し、どんな相手をも受け止め、尊重すること。対立、排除による平和はない。」と話された。

最後に深掘さん、高見大司教様へ



の感謝式をして研修会は終了した。いわゆる安保法制の法案審議中の期間であった事もあり、信徒の平和への関心が高まっている中での研修会は大変有意義なものとなった。

### 被爆マリア像



浦上教会の中央祭壇（木製）の上部に奉られていた無原罪のマリア像。当時赦しの秘跡のために教会に集まっていた司祭二名、信徒二四名は共に被爆。全員が爆死し、大聖堂は跡形もなく倒壊した。その年の十月、長崎出身の復員兵で北海道の修道院に帰院する途中のある聖職者が、焼け跡のがれきの中にマリア像を発見。持ち帰り、自室に安置して毎日祈りを捧げていた。その後、被爆三〇年目の年に浦上天主堂に返上された。現在は、浦上天主堂の一角に被爆六〇周年記念事業の一環として新設された『被爆マリア小聖堂』の祭壇中央に安置されている。

### 募集します！

下五島最大の信徒数である福江小教区ですが、信徒同志のつながりという面では残念ながら弱いと言わざるを得ません。福江小教区の成り立ちが、市の発展とともに他の小教区から転入した信徒達で構成されて来た事が影響しているかも知れません。お互いを知らない事が多くありませんか？「教会で見かけるけど、どんな人か知らないなあ」と思っている方も多いと思います。ミサが終わったらそそくさと教会を出ていく人ばかりで、ゆっくり話をする人はわずかです。関わりが少ない事が、掃除当番など奉仕活動への参加の少なさにも影響しているでしょう。何か寂しい感じがしませんか？

信徒同志がお互いを知る機会を持ってないか：一杯茶屋もそんな取り組みの一つと言えますが、広報委員会で何かできないか。そこで、信徒さんの中から自己紹介をして下さる方を募集したいと思います。特に飲食店やサービス業など、お店をしている方大歓迎です。お店の紹介も兼ねて取材を受けて頂けないでしょうか？ 自薦他薦問いません。広報委員まで教えて頂けると幸いです。よろしく願います！

# 敬老祝賀会

九月二〇日の二番ミサ後、敬老会が信徒会館で開かれました。今年は、中村神父さまの巡礼のスケジュールもあり、大天使ミカエルの霊名のお祝いを加味したものととなりました。

今年は、七五歳以上二〇九名のうち三〇名の方にご出席いただけました。なお、金婚式カップルのお申し出はありませんでした。

会はず中村神父さまによって、お祈りと「人生の先輩信仰の先輩として、後続の信徒を指導し支えてくださ



う挨拶から始まりました。そして、入口氏の乾杯の挨拶では、戦後・被爆七〇年、安保健案に触れ、長年のご苦労をねぎらいました。

食事と歓談の合間に、教会学校の子どもたちの素直な歌声やシスター合唱団の多重唱が、お祝いの気持ちを伝えることができました。また、福祉委員からは朗読奉仕の紹介がありました。読んでみたい本をお申し出ください。読んだら、ご要望に応じて朗読を吹き込んでお渡ししますとのことでした。

お楽しみのカラオケ大会では、美

## 中村神父様霊名のお祝い



九月二十日(日)二番ミサ後に中村神父様の霊名の御祝式が行われました。信徒代表より、「霊名の祝日おめでとうございます。こちらに赴任されてからは浜脇・井持浦教会の主任司祭として、また下五島地区長として多忙な毎日ではございますが、何事も前向きにとらえる行動力は早速御ミサをよりよい典礼にするために改められました。聖母祭夜市では、自ら五島うどん販売コーナーを設けて信徒に気さくに話しかけられ皆さ

声自慢の神父さまを皮切りに、伴奏テープ持参のご当地ソングや手拍子による音頭など、大いに盛り上がりました。やがてお開きの時間となりましたが、歌い足りなかった歌手が神父さま始め大勢いらしたのではないのでしょうか。

来年もまた、より多くの方にご参加いただけますように、どうぞお健やかでいらして下さい。

んも大変喜んでいました。どうかこれからも大天使ミカエルのように忠実に神様に仕え、高齢化が進んでおりますが繋がりをもって本当に元気ないきとした教会になるよう私達信徒を導いてください。」と御祝の言葉とともに霊的花束が贈呈されました。

中村神父様より「たくさん御祝ありがとうございます。そして敬老者の皆様おめでとうございます。敬老者の皆様のご理解と支えがあり、立派な信徒会館・司祭館が完成しました。人生の先輩、信仰の先輩でもあるのでちゃんと神様の福音、父の家に帰ることができるよう先輩として指導して頂けたらと思っております。健康に気をつけて、これからも後輩たちのために力をお貸し頂けたらと思います。」とお礼の言葉を述べられた。

## 今後の日程

- 10月25日(日) 牢屋の窄殉教祭(浜脇小教区) 時間:午後1時〜 集合:久賀島までチャーター船で行きます。
- 檜の浦港に午前11時20分までに集合して下さい。

※雨天の場合は浜脇教会で行います。

- 11月3日(火・祝) 桐ヶ丘墓地清掃・墓地ミサ 時間:墓地清掃 午後2時〜 墓地ミサ 午後3時〜
- 11月22日(日) 初聖体式
- 12月6日(日) 聖フランシスコ・ザビエル 小島神父様霊名お祝い
- クリスマスマス小屋、教会周辺イルミネーション飾付

## 編集後記

今回も無事「こころ」を発行することが出来ました。今回は、戦後70年や安保健法、難民問題など社会情勢の影響もあり、戦争と平和について考えることが多かった時節でありました。皆さんはどうでしたか。

ご意見、感想などお寄せ下さい。よろしく願います。

(N.H)